

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 29 年 8 月

○ 概要

- (1) 平成 29 年 8 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,251 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+2.7%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,504 円（伸び率+2.1%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,519 億円（伸び率+3.0%）、薬剤料が 4,721 億円（伸び率+2.5%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 799 億円（伸び率+14.4%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,892 円（伸び率+1.1%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.79 種類（伸び率▲0.9%）、24.8 日（伸び率+2.2%）、85 円（伸び率▲0.2%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,876 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+62 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 835 億円（伸び幅▲1 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の+44 億円（総額 691 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,876 億円 (+62 億円)	21 循環器官用薬 (835 億円)	11 中枢神経系用薬 (679 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (565 億円)
0 歳以上 5 歳未満	27.0 億円 (▲2.8 億円)	44 アレルギー用薬 (12.6 億円)	61 抗生物質製剤 (7.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	69.8 億円 (▲2.5 億円)	44 アレルギー用薬 (26.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (17.6 億円)	61 抗生物質製剤 (7.4 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,325 億円 (+9 億円)	11 中枢神経系用薬 (297 億円)	21 循環器官用薬 (247 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (210 億円)
65 歳以上 75 歳未満	969 億円 (▲7 億円)	21 循環器官用薬 (250 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (171 億円)	11 中枢神経系用薬 (118 億円)
75 歳以上	1,485 億円 (+60 億円)	21 循環器官用薬 (335 億円)	11 中枢神経系用薬 (258 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (190 億円)

- (4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,504 円（伸び率+2.1%）で、最も高かったのは京都府（11,290 円（伸び率+1.6%））、最も低かったのは佐賀県（8,145 円（伸び率+2.0%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは和歌山県（伸び率+4.8%）、最も低かったのは茨城県（伸び率▲0.4%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 799 億円（伸び率：+14.4%、伸び幅：+101 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	69.1%	+2.9%
薬剤料ベース	16.9%	+1.8%
後発品調剤率	68.0%	+1.8%
（参考）数量ベース（旧指標）	46.8%	+2.5%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+14.4%	+22.7% (45 歳以上 50 歳未満)	+9.3% (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.9%	17.8% (0 歳以上 5 歳未満)	9.8% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	712 億円 (+91 億円)	21 循環器官用薬 (210 億円)	23 消化器官用薬 (112 億円)	11 中枢神経系用薬 (84 億円)
0 歳以上 5 歳未満	5.5 億円 (+0.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)	44 アレルギー用薬 (1.8 億円)	61 抗生物質製剤 (1.0 億円)
5 歳以上 15 歳未満	10.4 億円 (+1.9 億円)	44 アレルギー用薬 (5.8 億円)	61 抗生物質製剤 (1.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.3 億円)
15 歳以上 65 歳未満	232 億円 (+33 億円)	21 循環器官用薬 (58 億円)	11 中枢神経系用薬 (37 億円)	23 消化器官用薬 (31 億円)
65 歳以上 75 歳未満	182 億円 (+20 億円)	21 循環器官用薬 (67 億円)	23 消化器官用薬 (27 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (20 億円)
75 歳以上	282 億円 (+35 億円)	21 循環器官用薬 (84 億円)	23 消化器官用薬 (53 億円)	11 中枢神経系用薬 (35 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,215 円	1,592 円（北海道）	1,012 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+13.8%	+20.3%（徳島県）	+10.2%（長野県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	69.1%	80.0%（沖縄県）	60.3%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.9%	21.3%（鹿児島県）	14.0%（徳島県）
後発医薬品調剤率	69.0%	78.2%（沖縄県）	62.3%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	46.8%	57.1%（沖縄県）	41.3%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成29年8月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。